

# スペシャルガイド

# 天空の恋歌

歴史教育を踏襲した日本文学を歌劇の舞台を通してお届けいたします。



## その『天空の恋歌』の原作【天守物語】とは…

泉鏡花の戯曲の中でも屈指の名作とされる「天守物語」は、白鷺城（姫路城）の最上階には魔界のものが住むという伝説に由来します。鏡花はこの伝説にその他の怪談話や伝説などを巧みに織り交ぜて、美しい異界の人と、この世の人間との甘く切ない恋物語を描きました。

歴史的に有名なこの「天守物語」は、歌舞伎などでは代々受け継がれている演目の一つであり、様々な舞台や映画化など多くの人々の共感を生んでおります。その作品を、今回は歌劇のステージに相応しく、「天空の恋歌」というタイトルのもと、美しく切なくドラマティックに演じさせていただきます。



## あらすじ

いにしえより城の天守最上階にはあやかし（魔界の者）が棲むといわれ、人間は立ち入らない掟が交わされ、立ち入れれば命はないと言われ伝えられていました。あやかしたちもまた、その昔、雷丸（いかずちまる）という人間の刀により封印され、掟を破り人間界へ立ち入れれば、消え去る運命でした。

あるとき若く美しい武士、図書之介（ずしょのすけ※愛那月ひかる）が主君の命令で天守に上ります。鷹を操る鷹匠である図書之介は、主の鷹を天守閣に迷い込ませてしまったのです。天守に上った図書之介は、あやかしの姫、富姫（とみひめ※月瀬彩花）と出会います。富姫の美しさに心奪われる図書之介。そして富姫も、主の鷹を失っても、天守閣に立ち入っても、残された道は「死」のみと語る図書之介の爽やかな心につれ、2人は恋に落ちます。しかし魔界と人間界という運命のもと、富姫は気持ちを抑え、二度とここへ来てはいけないと諭して、手柄になるよう雷丸を持たせ、図書之介を帰します。しかし、主君は雷丸を持ち帰った図書之介を謀反人とみなし、図書之介には打ち首の命が下ってしまうのです。

そしてふたりの恋は魔界と人間界の戒めを破り、争いを引き起こすことになってゆきます。最後に2人が選ぶ道とは…



## 関連図

